



戦後75年特集

戦後75年の夏、平和についてみんなと一緒に考えたいな。仙台市青葉区の宮城学院中と東二番丁の小の平和学習を紹介するね。

◇ 宮城学院中は毎年、被爆地長崎をテーマに1年

ぼくも私も語りたい!

被爆地長崎、仙台空襲に学ぶ

平和のありがたさを実感

生から平和学習に取り組めます。昨年12月には、3年生48人が2泊3日で長崎市を訪れました。生徒たちは原爆資料館や城山小被爆校舎を見学し、小学生で被爆した語り部の話を聞きました。平和活動を行う活水高と交流。平和公園で独自に式典を行い、平和への決意を新たにしました。



参加した宮城学院高1年の市川杏さんは「大勢



⑤平和を願い折り鶴などで作ったモニュメントを届けた市川さん(右から2人目)ら宮城学院中生=昨年12月20日、長崎市の平和公園
⑥平和学習で仙台空襲について調べる東二番丁小の6年生=ことし7月8日



の人が亡くなった悲しさを実感しました。戦争は起きてはならないと強く思いました」。

柳沢ひかりさんは「命の大切さ、被爆体験を語り継ぐ語り部と高校生の思いの強さを感じ、自分たちが下の世代にどう伝えるか考えるようになりました」と話します。

研修後は「長崎新聞」をまとめ、核兵器廃絶の署名活動も行いました。

街の復興を学んでいます。横山菜美さんは「空襲で街が焼け、多くの人が亡くなったことを知り、びっくりしました」と語ります。

同校は空襲で校舎が全焼し、当時の在校生23人が犠牲になりました。自分と同じ年頃の子どもも命を落としていてショック。平和のありがたさを感じた」と述べます。

庄子まゆさんも「爆弾が落とされ、学校の近



くに住んでいた人が大勢亡くなったのは悲しい」と被害の大きさに驚いた様子。

「もっと生きたかったのに思いがかなわなかった人がいる。今の仙台は戦争がなかったかのように発展したけど、空襲があったことを後の世代にしっかり伝えたい」と話しています。

◇ 戦争と平和を考えるヒントがあったよ。家族や友達、先生など周りの人と話してみてほしいな。

今週の注目ニュース

◇10日(月) 山の日

2016年から8月11日が「山の日」として祝日になったよ。ことしは東京五輪による渋滞を避けるため閉会式翌日の10日に移動したんだ。五輪が1年延期になったので来年の山の日は8月8日だよ。

きょうの紙面

- 2面 イマ★どきりポート
- 3面 3分チャレンジ
- 4・5面 いいね小学校
- 6・7面 河北新報紙齢4444号投稿特集
- 8面 短い夏休みどう思う?

みんな思い出

みんな言いたい

みんな知りたい

みんな守ろう

みんなトモダチ